



發行日 五月十五日 廿五日  
定價 一月十元 三月廿元 半年五十元 一年九十元  
郵税共 代用増 二ヶ月 二圓廿錢  
廣告料 普通通關 十二行一圓 特別通關 金一圓五十錢  
發行所 東北實業新聞社  
編輯印刷人 遠藤 林 藏

言論

政黨政治と其永遠性

政黨政治は、自分の手でその力を同じものだ、といふの現實暴露をやつてゐる。ふことが出来るのである。そこにも歴史の進行の必然しかし政黨は、諸外國に於るやうに見えるが實はそれの跡が辿られる、政黨がともまた同じやうに、我國が、燈火の消えさうとして居る階級との已み難き、縁のたは尙ほ現實政治上に於けるものである、將來に於ては政一の活ける力である、もとののであることを暗示して居る。政黨は外力を待たずに、自然より政黨の此の活力は、従るに其内部から崩壊するであらうの正統派の政治學の教科書に、その徴候は書に書いてある通りに、一さうした資本階級の力に伴つて始終するものである。既に今日に於て充分に崩さるゝ種の道徳的權威から來て居るものである、かう考るものではなくて、それはして見れば、政黨の力の永へて來ると、政黨を大きく實に、其背後の支柱となつて居る資本階級の力を反映し、その否定しなればならぬに導いた力は、——やがてして居るものである、それ政黨を死滅の方に誘ひつゝ、故に、苟くも、その背後の

十對四の比率にて

平、常磐兩行併合成立

合併交渉が成立した平、常磐兩銀行重役が十日午後六時水戸市常磐銀行において取交した合併契約書並に覺書は左の如くである。

合併契約書  
株式會社常磐銀行(以下甲と稱す)と株式會社平銀

行(以下乙と稱す)とはその基礎を堅固にし地方金融改善のためこゝに合併の利益なるを認め兩銀行代表者は各重役會の決議に基き左の通り約定す

一、甲乙兩銀行を合併し乙は解散し甲は存続す然し乙の本支店とし又乙の出張所はそのうち四倉、浪江、小高の三ヶ所を甲の出張所として存続し經新山、富岡、の三ヶ所を廢止す

二、甲は合併により資本金二十萬圓を増加しその株數一萬二千株を發行し乙より引繼ぎたる株主名簿により乙の五株に對し甲は二株の割合をもつて

同等拂込の株式を引替へ交付するものとす但割當交付につき生じたる端數株式は商法の規定により處分するものとす

三、乙は昭和三年下半年期損益金のうち前期より越益金並に有價證券賣却益金を控除したる後の營業損益計算が純損金の時は無配當とし純益金の時はその處分案につき甲と協議の上定めるとす

四、甲乙共に合併に關しその株主總會の決議を経た上で乙は休業中の本支店を閉業し全平常の營業に復するものとす、従つてこれに要する營業資金全部は甲より無制限に援助す、出張所の業務は追つて合併執行までその所屬本支店において併せ行ふ

五、甲乙共に合併に關しその株主總會の決議並に主務省の認可を得たる上は別に合併實行期日を定めその期日において甲は乙の債權債務一切を繼承するものとす

六、前項の債權債務の引繼は三年六月三十日現在を兩銀行合併實行の上株

基礎とし同日以後の財産の増減は別に計算書をもつて明確にし不當の増減支出ある場合は乙の職員個人聯盟をもつてその責に任するものとす、また乙は右の貸借對照表並に財産目録は總て正確なるを保證し萬一その表以外を負債存在すること後日に至り發見される時は乙の役員個人聯盟してその責に任するものとす

七、本約定後合併實行の時機まで乙は重要な事項については甲に協議の上これを行ひ損益の計算および處分に關してはすべて甲の承認を得るものとす

八、この假契約書は双方株主總會の承認決議により別に改めて契約することとなり直ちに本契約としてその効力を發生するものとす

前項の株主總會は双方とも來る昭和三年十二月二十六日に開催するものとす

右契約の證として本書二通を作成し各一通を所持するものとす

覺書  
株式會社常磐銀行と株式會社平銀行との間に合併契約相成り候に付ては株式會社常磐銀行が認定したる株式會社平銀行の不良貸金中合計金五十二萬六千三百三十圓七十五錢を兩銀行合併實行の上株

式會社平銀行の合併に關する臨時總會において定めた方法に従ひ無償讓渡することを約定す依つて通を所持す  
本覺書二通を作成し各一通を所持す  
發行期日と延期廣告  
豫約 磐城信用錄  
出版物  
内務省許可豫約出版物磐城は其御厚意に報ゆるため原を經由して内務省へ届出で信用錄發行に就ては財界不稿材料蒐集に努力を拂へ十昭和四年三月廿日發行と變況の今日成行如何やと考慮一月五日に發行の準備を急更許可相成候同の延期は致居候處豫想外の好成績をき居候處編輯著作吉村白絶對最後の延期に有之候へ得願る順調に迎へられつゝ、水氏病氣に胃され療養久しば右了承相成度此段廣告候有之候事は各位の熱誠なるきに亘り遂に發行期日變更也  
御援助の賜と奉深謝候就ての止むなきに至り平警察署  
東北實業新聞社

關内藥舖  
藥劑士 關内榮助  
平町四丁目  
電話四〇番  
オシドリ印 純良藥品 特約店  
理化學研究所製 特約店  
吸入用酸素、酸素吸入器  
山野邊藥局  
藥劑師 山野邊東次郎  
平町五丁目角

平 仲 町 二  
藝 妓 屋 組 合  
二葉印刷所  
電話三七四番

單獨更生に邁進する

株式磐城銀行

地方經濟界のため株主預金者の自覺を促す

休業の磐城銀行は十二月廿四日迄更に地方のため預金者のため悦向ふ一ヶ月間の休業を聲明しし事である、其交渉に尤も古き歴史と最も新らし諸氏には多謝しておく、

この重役の使ひ込み不良債権、預金者株主諸士の援聲附の欠陥は何れもの銀行も自覺を欲求するものである、

この重役の使ひ込み不良債権、預金者株主諸士の援聲附の欠陥は何れもの銀行も自覺を欲求するものである、

財界の危機に獨歩して

大飛躍を期待する

株式磐城銀行

磐城銀行は健康主義を實行行家の取捨に苦しみ切掛けを執れば其事務を片ツ端か

に善處した結果に外ならなとなつてゐる怪辣慄慄、沈兎に角真面目な人物のやう動せぬ所も彼れの手腕に因

和洋銅鐵 鑛務セメント會社 金物問屋 釜屋商店 平町電話一九三九番

國研實敏捷は(○)の生命なり

行の給仕から叩きあげたものがある、だけに數字が能く見え事務

龍澤俊平氏

此財界の大波瀾の渦の中に立つて危機を如何に切り抜けるか彼れは鐵腕を練つて居るべき時機を待つて居る

上遠野湯本間の交通機 關として運轉開始 鈴木自動車部

鈴木自動車部

上遠野、湯本間の交通機關の新臺車を以て乗合運轉として在來高岡自動車運開始したが地方に與へる便

赤井村長

根本忠松

矢野達

赤井村長、根本忠松、矢野達、此財界の大波瀾の渦の中に立つて危機を如何に切り抜けるか彼れは鐵腕を練つて居るべき時機を待つて居る

御大典の佳辰を卜し

上遠野小學校

新築落成式

知名諸士を招ぎ盛大に舉行さる

石城郡上遠野村尋常高等小を舉行された、此新築校舎...

愛郷心に富める識見者

村長吉田房吉氏

現下農村の受難期に當り、爾來終始一貫誠心誠意を以...

人物評

生田目松之助氏

上遠野村深山田の人識見に富める地方一流の人材であ...

上遠野庄松氏

縣下一の隻價旅館あめ屋號の主人公で消防の副組頭で...

生田目安太郎氏

あるが事實に於て是迄消防の刷新の事務一切は氏の手に依つ...

て行はれたのである、氏を益々發展を祈る。

鈴木通也氏

性温厚篤實上遠野村での新智識である嘗ては北海の天地に遊泳して大に收穫を...

鈴木仁郎氏

上遠野村製菓業の老舗丸木屋號を以て有名である、主人公鈴木仁郎氏は意氣も意...

鈴木子之吉氏

氏は上遠野村民政派の首領で地方の大隈とでも云つた位だ、豪氣であつて覇氣あ...

蛭田安平氏

自治體の功勞者卒直の人で何人とも遠慮せず云ふ處は言ふ、する事はする決行の人である萬事男性的で君...

上遠野村での人物で元は軍隊生活もした獸醫であり現村會議員の機にある地方の權威者として其名を知られ...

小澤貞久氏

上遠野村の青年團長で、警中出の秀才前途有爲の青年だ嚴君猪太郎翁を凌ぐだけ...

山野義一氏

世の中の事酔ばいも辛いも知りぬいた男で一度君と會談すれば一般の社會相が知れる故に地方の事はア〜で...

遠藤長治氏

温厚篤實の士で深山田區長様として輿望を一身に集めて居る熱烈な地方愛の所持者で郷土のためには一身を...

水野一作氏

君は上遠野村での成功者である何時も笑顔に客を迎へる、これ君の徳である以て君の人格が知れる。

断は君の禁物とする所であり育英事業に貢献せる其君は男氣のある男、仁俠功績は實に特筆大書すべき...

松本幸太郎氏

上遠野村郵便局長で寡言沈黙を以て目されて居る村治の事萬事萬端君の力を借...

志賀吉藏氏

氏は深山田の人で地方の重鎮を以て目されて居る村治の事萬事萬端君の力を借...

鈴木慶之助氏

性温厚篤實寡言にして實行を以て村會議員に推され村治上の事に重きを置き功績發達に資せらるゝ事多大で...

買ひ好い店

江戸屋小澤商店

江戸屋小澤商店 advertisement with logo and address details.

# 祝新築落成

上遠野小學校

赤坂毅一  
吉田房吉  
上遠野庄松  
鈴木仁郎  
松本幸太郎  
小澤光次  
水野一作  
鈴木通也  
志賀松吉  
志賀吉藏  
小澤貞久  
山野義一  
大野元  
蛭田敬一郎

瀨谷熊次  
瀨谷伊吉  
大泉元之助  
鈴木子之吉  
遠藤長治  
生田目松之助  
生田目安太郎  
蛭田安平  
鈴木利助  
鈴木慶之助  
榎田郁治  
荒川與市郎  
大野正  
小野千代松

(植田町)  
鷺清昇  
古川傳一  
片岡章  
森合芳男  
馬上守一  
鷺保之助  
小宅嘉久治  
大平千秋  
渡邊德之助  
佐藤松之助  
綠川信夫  
植田運送合資會社  
太由信昌  
藤田淺之助

株式會社 平營業所

武田精一

電機と機械

磐城工業商會

店主 中村佐治助

出張所 磐城平町四丁目電話一一八番  
青森縣三戸郡小中野町新町

株式會社 磐越銀行

## 中野甲藏

(山田村)

安島重三郎

下山田嘉一郎

木内善次郎

小野末吉

秋山清太郎